

スギじいのはなし



ながの  
長野のまちが みわたせる  
やまの うえに  
スギじい とよばれる  
いっぽんのおおきな  
スギのきが  
ずっとむかしから  
ありました。

スギじいの まわりでは  
いつものように  
タヌキ、キツネ、シカ、  
ウサギ、フクロウ、リスが  
なかよくあそんでいました。





グラグラグラ!!

とつぜんじめんがおおきく  
ゆれました。

「キヤー」とシカがさけびました。

「ワーツ」とタヌキがおおごえを

あげました。

「なんだ、なんだ、じしんだ!!」

キツネもウサギも

フクロウも

おおきなゆれにおどろいて

さけびました。

しばらくするとゆれは

おさまりました。

「みんなケガしてない？」

とウサギがきくと、

「だいじょうぶだよ!」と

タヌキもキツネもシカも

フクロウも

こたえました。

「でも、おおきなじしんだったね」  
フクロウはくびをかしげていました。  
「ああよかった。でも、もうだいじょうぶ  
はやくあそぼう。」とタヌキがいました。

タヌキのこえに どうぶつたちが  
またあそびはじめようとしました。  
すると

「きみたち、ちょっとまつのじゃ。」と  
スギじいがいいました。

「どうしてスギじい？」

キツネがふしぎそうにたずねると、

「わしはせんねんもまえからここにたつておる。  
じゃから、たくさんのことをみてきた。

そのなかで、どうしてもわすれられないことがあつての。」

スギじいははなしはじめました。

「あれは、百六十年ひゃくろくじゅうねんくらいまえのことじゃった。」





「まだ まちに

おさむらいさんが いたころの はなしじゃ。

善光寺では 七年に いちどの

御開帳が ひらかれておった。

にほんじゅうから ひとがあつまり、

そりや にぎやかじゃったわい。

よるになり みんながねむってしまったころ

おおきなじしんが おきたのじゃ。」



「とつぜんじめんがおおきくゆれ、

あつというまに

たかさんのたてもものが

こわれてしまった。

たてもものしたじきになって

しんでしまったひとが

たかさんおったのじゃ。」



「そのうちにくずれた。たてもものから火がでて、  
みるみるうちにひろがっていった。  
にげられたひともいれば、にげおかれて、  
いのちをおとしたひともおる。

それにの、じしんで、やまがくずれ、

犀川さいがわのみずがせきとめられてしまった。

じしんから二十日はつかたったあとあふれだし、

すごいいきおいで大水おおみずが

善光寺平ぜんこうじだいらをおそってきける。

じゃが、なくなったひとはすくなかった。」



「それはなぜだかわかるかい？」  
スギじいはどうぶつたちにたずねました。  
「なんでだろう？」  
「どうして？」  
どうぶつたちはかんがえます。  
スギじいはいいました。  
「それは、まちのひとびとは  
もうだいじょうぶだとおもっていたけれども、  
とのさまは  
みずが おおみず あふれて 大水が  
くるかもしれないと しんぱいして  
まちのひとたちに たかいところへ にげるように  
めいじていたからのじゃ。」







「そうか！ゆれがおさまったからとって、  
あんしんしちゃいけないだね。」  
とウサギがいました。

「そういうことじゃ。」スギじいはうなずきます。

「ぼくたちじしんをかるくみていたよ。」

とタヌキがいました。

「むかしわたしたちがすんでいる長野のまちで  
そんなにたいへんなことがあったんだね。」  
とキツネがいました。

「これからぼくたちもじしんのこわさを  
つたえていかなきゃね。」とウサギはいました。

スギじいは、にっこりとほほえみました。

そのよるどうぶつたちは

おうちのひとにスギじいからきいた

むかし長野のまちで起こった

おおきなじしんのおはなしをしました。

## 善光寺地震

一八四七年五月八日（和暦の弘化四年三月二四日）の夜一〇時頃、長野盆地の西縁部を中心とした地域に大きな地震（善光寺地震）がおこりました。地震の規模はマグニチュード七・四（推定）でした。

この地震は、活断層が動いたために発生したもので、震源が浅かったこともあり、震源域の近くでは震度七の激震だったと推定されています。

善光寺では、御開帳で賑わっていた最中のできごとでした。

地震発生から二〇日後の一八四七年五月二八日（和暦の弘化四月十三日）の午後四時頃、大音響とともに岩倉のせき止めが決壊して、ダム湖の水は、一気に善光寺平に押し寄せました。善光寺平の入り口ともいえる水内郡小市村（長野市安茂里）では濁流の深さが約二〇m（六丈八尺）に達し、それが善光寺平に広がって次々に押し流していききました。松代藩では流失家屋一八四一戸、半壊家屋二八〇二戸の被害を出しました。それでも溺死者が二二人と少なかったのは、決壊を予測して住民の多くが避難し、さらに決壊のとき鐘やのろしで合図したからと言われています。

### 参考文献

- 『災い わざわい 人々のくらしと災害』 長野県立歴史館 二〇〇八年  
『善光寺地震に学ぶ』 赤羽貞幸・北原系子 編著 信濃毎日新聞社 二〇〇三年

## あとがき

二〇一一年三月一日巨大地震が日本を襲いました。東北の沿岸部はマグニチュード九の大地震とその直後に襲ってきた大津波により、壊滅的な被害を受け、たくさん命と大切なものを失いました。

この現実を前に幼児教育学科に学ぶ私たちに何が出来るのかをみんなで考え相談して、私たちの住む善光寺平で起こった過去の地震を後世に伝えることが大事と考え、この絵本を作りました。

なお、この絵本は長野市との幼児防災啓発連携事業として制作したものです。

### この絵本を作った人たち

- え ぶん 長野県短期大学幼児教育学科 三年  
瀬下幸里 竹入愛澄 竹節麻莉子 土屋彩未 星野美文子 丸山奈美子  
監 修 長野県短期大学幼児教育学科造形研究室 小林 亮介  
長野市危機管理防災課 山口 正樹  
印刷製本 株式会社 信光社

二〇一一年一月 発行